

平成 25 年 11 月 11 日

兵庫県知事

井戸敏三 殿

平成 26 年度当初予算編成に対する申し入れ

兵庫県議会議員

池畑 浩太郎

はじめに

政府は農産物輸出倍増を掲げながら、その促進のための 2013 年度予算は、わずか 11 億円である。戸別所得補償予算の 500 分の 1 以下であるのが我が国の農業政策の現実だ。

TPP を通じて高関税政策を撤廃することこそ、日本農業を長期的に成長させる唯一の戦略である。TPP は関税低減・撤廃の期間として、10 年から 20 年かけてよいルールになっている。国内の補助金を減らす期間と関税を減らす期間をシンクロさせることで、国内の農業自由化と農業の国際化によるメリットを同時に享受できる。

農業輸出大国は農業輸入大国なのだ。例えば、世界一の農産物輸出国・米国は世界一の農産物輸入国である。質の良い原材料を国際価格で輸入して国内で加工し、輸出している結果である。兵庫県でも農作物輸出促進を進行させることで県内産に消費者を振り向かせるチャンスと考える。

予算の編成にあたっては、将来の奇跡的な好景気や増収を期待するのではなく、規模に応じた予算を心掛け、限られた収入を最大限有効に活用するため、我々議会や行政には個々の支出や制度の再点検及び合理化を進め、財源を絞り出して成長につなげることが求められています。

そのための一助として、あるいは議論の契機になることを願い、以下申し入れを致します。

農政環境部関係

- 1 兵庫県産和牛の東南アジア・イスラム圏への輸出推進について
- 2 国際青果市場の誘致について

農政環境部関係

1、 兵庫県産和牛の東南アジア・イスラム圏への輸出推進について

成長著しいアジアの富裕層をターゲットとする戦略も有効と言われてから久しい。

日本は1991年度に牛肉の輸入数量制限を撤廃して自由化に踏み切り、2000年度以降は関税をほぼ半分にした。この措置で生産農家は激減したが、国内の生産量はそれほど減らなかった。残った農家は、経営規模を拡大し、効率化を図ることで生き延びたとされる。兵庫県では、世界ブランド神戸牛がある。また、但馬牛、三田牛と世界的な知名度はまだにしても自由化の進展に適應する素地は十分にある。黒毛和牛の高級ブランド肉は米国産や豪州産の牛肉と競合しておらず、日本がTPPに参加しても残っていくとの見方がある。

今後は、東南アジアを中心としたイスラム圏への輸出と畜場の整備に力を入れ、ハラールに対する情報を徹底的に情報収集させることにより東南アジア・イスラム圏への輸出を推進すべきと考える。

そこで、現在、全国にいくつかあるUAEドバイを中心としたハラール対応ではなく、マレーシア・インドネシアを中心とした政府機関認証のと畜場を全国に先駆け整備し、早期にハラール認証取得し兵庫県内の畜産農家及びそれらに付随する加工業の発展に最大限の後方支援をすること。

2、 国際青果市場の誘致について

日本から輸出する農産物は、国内でも高級品とされる「いちご」や「サクランボ」また栽培方法にこだわった「コメ」などであり、世界でも富裕層に人気があるから輸出可能だと言われておりますが、農家に輸出を勧めても一般的には特別な先進農家以外はどうしていいかわからない。

ならば、富裕層をターゲットにするだけでなく、近郊農業が多い宝塚市や伊丹市などに近い伊丹空港や神戸空港のそばに国際青果市場を作って、そこに農家が果物や、米なり、野菜を持ち込めば、海外からの仲買業者及び卸しが常駐して買ってくれる。農家にとってみれば、そこに持ち込むだけでいい。難しい輸出手続きや販路開拓などを考えなくて良い、いいものを作るだけで輸出ができることになる。

また、国際青果市場の整備は、空港の真の国際空港化や海外からの買い付けに来る業者の誘致にもつながり、観光にも寄与することと考える。

そこで、攻めの農業の一つの方策として、国際青果市場の整備について常にアンテナを張り情報収集し実現すること。